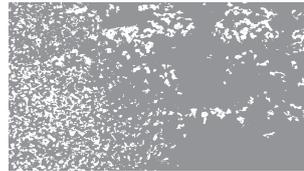


第Ⅱ章 佐渡金銀山遺跡の概要



第II章 佐渡金銀山遺跡の概要

1. 佐渡市の概要

(1) 概要

①位置

佐渡市は佐渡島全域をその行政区とする。佐渡島は、本州・北海道・九州・四国を除くと、沖縄本島に次ぐ大きさの島で、新潟港（新潟市）の西方約45km、直江津港（上越市）の北方約78km、寺泊港（長岡市）の北西方約46kmの日本海上に位置している。本州とは、両津航路（両津港～新潟港）、小木航路（小木港～直江津港）、赤泊航路（赤泊港～寺泊港）の海上3航路で結ばれている。

②地勢

佐渡島の面積は約855.69km²、周囲の海岸線は280.9kmを測り、山林と雑種地が島面積の80%以上を占めている。佐渡島の地勢は激しい造山活動の影響を受けて多様性に富み、山地、海岸段丘、低地などから形成される。北東から南西方向には、標高1,173mの金北山を最高峰とし延長40kmに伸びる大佐渡山地と、標高645mの大地山をはじめとする比較的低い山並みが40kmにわたり連続する小佐渡山地が並行して屹立し、大佐渡山地南麓、小佐渡山地北麓には扇状地が形成されている。中央部を島内で流域面積最大の国府川が流れ、この流域に開けた国中平野が形成されている。また、島の西側の真野湾沿いには浜堤および砂丘帯が発達している。その他、島南西部の羽茂川沿いにも小規模な平野が形成されているほか、沿岸には海岸段丘が発達する。

③人口

国勢調査による統計を取り始めて以来、佐渡市（平成16年の合併以前は10市町村の合計）の人口のピークは昭和25年（1950）の125,597人であった。平成28年（2016）3月1日現在（新潟県推計人口）の佐渡市の人口は58,351人で、最大時の約半分となっている。また、佐渡市の平成22年（2010）の国勢調査による老年人口比率（65歳以上の人口割合）は36.8%と、全国の老年人口比率23.0%や新潟県の老年人口比率26.3%を大きく上回っている。年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15歳以上64歳以下）は減少傾向にあり、老年人口については、増加の傾向が続いている。

④産業

就業者数は平成22年（2010）の国勢調査で31,399人で、産業別構造は、第1次産業21.9%、第2次産業18.6%、第3次産業58.5%となっている。第1次産業は、従事者の高齢化と就業者数の減少や深刻な担い手不足が懸念され、流通価格の低迷や生産コスト増加による採算性の悪化も課題となっている。第2次産業は、1工場当たりの従業者数は10人台と、小規模の事業所が多数を占めている。第3次産業は、平成16年（2004）と比べ、合計事業所数は126（9.3%）、従業者は391人（7.2%）、年間販売額は6,290百万円（5.4%）減少している。また、観光客の入込数は、平成3年（1991）の121万人をピークに減少を続け、平成23年（2011）には53万人台にまで落ち込み、佐渡観光の魅力の再構築が課題となっている。

⑤行政

明治4年(1871)の廃藩置県によって佐渡は相川県となったが、同9年に新潟県に合併され、同21年の市制・町村制施行後は7町51村、同34年の町村合併により5町21村となった。戦後は、昭和29年(1954)に両津市が成立し、同36年には両津市・相川町・佐和田町・金井町・畑野町・真野町・羽茂町・小木町・新穂村・赤泊村の1市7町2村となり、平成16年(2004)の10市町村合併による佐渡市誕生を経て現在に至る。

① 関連する施策

近年、佐渡金銀山の世界文化遺産登録運動が起こり、平成22年(2010)11月に、『金を中心とする佐渡鉱山の遺産群』として、関連する史跡などが世界遺産暫定一覧表に記載された。また、佐渡市では世界文化遺産を含めた「佐渡3重要遺産」の登録または認定とその保存活用を施策の重点項目に掲げ、市内10ヶ所のジオサイトを対象とする世界ジオパーク事業(2013年9月24日、日本ジオパーク認定)、『トキと共生する佐渡の里山』として平成23年(2011)世界農業遺産に認定された環境保全型農業の推進を進めている。さらには、自然環境保護にも重点を置き、特別天然記念物トキの野生繁殖事業として、平成20年(2008)から毎年、自然放鳥が行われている。

(2) 歴史

①縄文時代

佐渡で最古とされる縄文時代草創期から早期の遺跡は、南佐渡地域に分布している。国史跡である小木地区の長者ヶ平遺跡からは草創期と推定される有舌尖頭器が出土している。縄文前期後葉以降は縄文海進による海面上昇がみられ、国中平野周辺の舌状台地先端部を中心に遺跡が展開する。畑野地区三宮貝塚からは埋葬人骨が確認され、真野地区藤塚貝塚や金井地区堂の貝塚といった貝塚遺跡が数多くみられる。また、三宮貝塚や真野地区浜田遺跡からは貝殻条痕を有する土器が出土しており、同系の土器を有する山陰地方との交流のあったことが推測される。

②弥生時代

佐渡に弥生文化が伝えられたのは弥生時代中期中葉で、本州の畿内文化の影響が北陸を経て伝わったとされる。この頃、水田耕作の影響により国中平野低地部で開拓が進み、佐渡の赤玉石や碧玉を用いた玉作集落が成立する。主な遺跡には県史跡に指定されている新穂玉作遺跡があり、出土遺物は重要文化財に指定されている。この時期は、青森から福岡までの日本海側の遺跡で佐渡産の管玉が出土しており、装身具や祭祀品が交易品あるいは権力者への貢納品として製作されたと考えられる。玉作遺跡以外では、千種遺跡が著名で、沖積地の地表下約2mの地点から大量の土器や木製品のほか、イネ等の自然遺物が出土している。

③古墳時代

多くの遺跡が沖積地に埋没している可能性が高く、畑野地区晝場遺跡からは、住居跡と想定される方形区画溝が検出されている。また、古墳時代後期後葉になると、真野湾沿岸の段丘上に横穴式石室を伴う円墳が多くみられ、真野地区真野古墳群や相川地区台ヶ鼻古墳が県史跡に指定されている。このように、古墳が佐渡一円ではなく真野湾岸に分布することから、造墓主体となった集団が他国から真野湾沿岸へ渡来したことを想起させる。なお、欽明天皇5年(544)には、島の北部の御名部の海岸にツングース系の肅慎人の来着記録があり、日本海を越えた交流があったこともうかがわせる。

④ 奈良時代

この時期に佐渡は一国とされ、養老5年(721)に従来の雑太郡のほかに、賀母・羽茂の2郡が置かれ1国3郡となった。当時の国府は真野地区下国府遺跡(国史跡)を含む一帯と考えられており、周辺には佐渡国衙跡、中央伽藍や塔跡が残る佐渡国分寺跡(国史跡)、雑太郡衙や雑太駅に推定される仲畑遺跡などが所在する。また、この頃沖積地では積極的に水田開発が行われ、真野地区竹田沖条里遺構などもみられるほか、台地上では佐渡国分寺瓦を生産した真野地区経ヶ峯窯跡、佐渡国分寺の瓦のほか9世紀中葉から10世紀前半まで越後全域へ須恵器を供給した羽茂地区小泊須恵器窯跡群(県史跡)などの生産遺跡もみられる。

⑤ 平安時代

平安時代中期に編纂された『延喜式』に、佐渡国の等級は大上中下4段階の中国、京からの距離が近中遠の遠国で北陸道の終点とされ、陸奥や出羽国などとともに国土の辺境にして要地であることから「辺要国」に位置づけられていた。天平勝宝4年(752)には、中国東北部の渤海国から使者が漂着し、元慶4年(880)には、佐渡国は「本夷狄の地」で「人心強暴」とあることから、律令国家にとって佐渡は北の国境との意識が強かったものと考えられる。真野地区四日町高野遺跡からは、「軍」「団」の墨書土器が出土しており、治安維持のため佐渡国に軍事組織の配置されたことが証明された。また、『今昔物語集』には、治安年間(1021~24)に能登国の鉄掘り集団の長が来島した記録がある。この能登の鉄掘りは砂金を持ち帰っており、佐渡における産金記録の初見とされている。平安時代後期には、畿内の有力寺社が佐渡へ勢力を伸ばし、近江国日吉神社や越前国気比神社の社領が新穂地区大野周辺に成立した。

⑥ 鎌倉～室町時代

承久3年(1221)の承久の乱以後、佐渡は鎌倉幕府の支配下に置かれ、北条氏一門の大仏氏が佐渡守護に任命された。その守護代として相模国から入国した本間氏は、その支配を佐渡全土に広げていき、自身の支配地に氏神である八幡宮を建立し、流鏑馬などの神事を執り行うなど、東国の文化を移入させた。鎌倉時代後期から南北朝時代にかけては、本間庶子家による所領争いが起こったが、応永年間(1394~1428)頃には島内各地で国人衆の土着化が完了し、佐和田地区の河原田本間氏、真野地区の雑太本間氏、両津地区の久知本間氏、羽茂地区の羽茂本間氏など本間一族のほか、両津地区加茂の渋谷氏、金井地区吉井の藍原氏が勢力を伸ばしていった。現在も、国中平野一帯には城館跡が数多く残っており、単郭の堀や土塁を持つ新穂地区の新穂城跡・青木城跡は県史跡に指定されている。

なお、遠流の島としての佐渡には、このころ順徳上皇[承久3年(1221)]をはじめ、日蓮[文永8年(1271)]、京極為兼[永仁6年(1298)]、日野資朝[正中2年(1325)]、世阿弥[永享6年(1434)]等が流罪となり、歌・書状あるいは経典・謡本などに佐渡での足跡を残している。

② 戦国時代

この頃に、沢根本間氏や潟上本間氏といった新興の土豪が台頭し、島内各地で戦乱が相次いだ。その背景には、天文11年(1542)の鶴子銀山の発見や文禄2年(1593)の西三川砂金山の再開発など、新興勢力による鉱山支配がある。戦国末期には、河原田本間氏と羽茂本間氏による島を二分した争いが続いたが、佐渡は、天正17年(1589)上杉景勝の出兵により平定され、慶長5年(1600)まで上杉領として支配された。この間に金銀山の大開発が進められ、石見国から伝えられた横相(坑道掘り)や灰吹法などの最新技術は、その後の相川金銀山における金銀生産を可能にした。

⑧江戸時代

慶長5年(1600)関ヶ原合戦以後は、佐渡は徳川幕府の直轄地として、さらに鉱山開発が進められた。慶長8年(1603)には、石見銀山などの代官を務めた大久保長安が佐渡代官に任命された。翌慶長9年に相川に陣屋(後の佐渡奉行所)が建てられると、長安による計画的な町立てが行われ、人口4万人ともいわれる日本有数の鉱山都市相川が誕生した。元和4年(1618)には奉行制が布かれ、鎮目市左衛門・竹村九郎右衛門が初代佐渡奉行となり、以後幕末までに102人の奉行が赴任している。17世紀初めに隆盛を極めた鉱山は、17世紀半ば以降には経費の増大と坑道内の出水が課題となり、金銀の生産高は減少の一途をたどるようになる。元禄3年(1690)に佐渡奉行となった荻原重秀は、金銀山の復興に努め、元禄9年(1696)坑道排水を目的とする南沢疎水道を完成させるなど、鉱山政策を行う一方で、元禄6年(1693)には佐渡で最初の実測検地を行い、島内の年貢高は慶長時の2倍の4万587石に加増された。当時の石高は263村で13万石余であったが、享保4年(1719)の定免制導入による年貢増徴あるいは役人の不正や飢饉の発生もあって、寛延3年(1750)には島内で最初の一揆が勃発し、以後、明和4年(1767)と天保9年(1838)にも一国騒動が起こった。

文化元年(1804)ロシアの南下政策の影響により海防の必要性が生じたことから、同5年には急遽佐渡に台場が設置された。このうち、相川地区小川台場跡は島内で唯一原型をとどめており、県史跡に指定されている。また、嘉永3年(1850)には佐和田地区鶴子で大筒の鑄造が行われており、その技術は後の蝸型鑄金技術(県無形文化財)に受け継がれ、昭和35年(1960)には佐々木象堂が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。江戸期の金銀山の繁栄は、佐渡の産業や流通に大きな影響を与えた。江戸時代初期には、全国各地から鉱山技術者及び労働者・大工や石工などの職人・漁業者・商人・宗教者等が集まり、佐渡へ様々な風習や芸能などの文化が持ち込まれた。また、急激な人口の増加は島内の食料生産の発達を促し、海岸段丘や丘陵部の新田開発、砂丘地での野菜栽培が進められる一方で、鉱山で使用する炭・木材等の生産資材確保のため、山林は「御林」として奉行所管理のもと厳しい伐採調整が行われた。さらに、鉱山の発展は海運産業にも大きな影響を与え、越後からの米、東北地方からの炭・薪、北陸地方からの油・衣料・紙などの移入港として、五十里や沢根など真野湾側の港町が栄えた。小木港は金銀の積出港として成立発展したが、鉱山の衰退が始まる寛文年間(1661~73)頃からは、西回り航路の寄港地として相川を凌ぐ繁栄をみせた。

その他の産業においては、宝暦元年(1751)に、禁止されていた島内物資の他国出しが許可されたことから、松前などとの交易が盛んとなり、それまでは島内で消費された竹細工・藁細工・藤細工・串柿などが移出された。また、元文5年(1741)以降は、島の海士集団を中心に生産された干鮑・煎海鼠が、中国貿易における長崎俵物として盛んに製造された。工業としては、天保年間(1830~43)には、羽茂の氏江市郎兵衛によって製造された千歯扱きが諸国で評判となり、越後・信州・出羽・会津方面へ大量に移出された。さらに、19世紀初頭には、相川の黒沢金太郎が地元の土に金銀製錬滓である「カラミ」を釉薬に用いた施釉陶器の生産に成功し、島内における本格的な窯業の端緒となった。

文化の面においても江戸時代の社会的背景が大きく影響し、金銀山からの富の産出や人の交流によって伝播した様々な芸能が、現在も島の各地で伝承されている。自身も金春流能楽師の系譜を引くと伝えられる大久保長安が伝えた能は、江戸で武家階級に愛顧されたが、佐渡においては農民の文化として定着し、幕末から明治時代には兼用を含め200棟余の能舞台が存在した。さらに、鉱山の繁栄や作業の安全を祈願する「やわらぎ」、鉱業技術の交流があった甲斐国から伝播し

たとされる「春駒」など、金銀山との関係の深い芸能が17世紀から演じられた記録が残っている。また、海運の影響から海を介し伝えられた文弥人形、鬼太鼓や小獅子舞などの獅子舞系芸能、「佐渡おけさ」や「山田ハンヤ」といった民謡のほか、労作唄、花笠踊りや御田植神事などの田楽系芸能、「つぶろさし」などの神楽系芸能に代表される近世以前の芸能も伝えられている。このように、近世末まで連綿と受け入れられた芸能の蓄積も島の文化の重層性を示す要因の1つとなっている。

③ 明治時代以降

佐渡の近代化は、明治元年(1868)の夷港の開港に始まる。同年に開港した新潟港の補助港となった夷港は、明治19年(1886)の相川―両津間県道の開設に伴い、佐渡と新潟とを結ぶ主要航路として、それまでの小木・赤泊港に代わり急速に発展した。佐渡金銀山は、幕末まで生産量が大幅に減少していたが、明治政府は、明治2年(1869)に官営の佐渡鉱山として経営改革に着手し、欧米の最新技術を積極的に取り入れ近代化を図った。明治10年(1877)には金属鉱山では日本初の西洋式堅坑である大立堅坑が完成し、明治18年(1885)には、鉱山局事務長に就任した大島高任によって高任・北沢・大間地区などにおいて諸施設の整備が行われ、佐渡鉱山は日本を代表する近代鉱山の地位を確立した。その後、明治29年(1896)に佐渡鉱山は三菱合資会社に払い下げられ、民間へ経営が移管された。昭和10年代には国策として増産が課せられ、北沢地区には「東洋一」と称された浮遊選鉱場等の施設が整備された。しかし、戦後は鉱石の品位低下と無計画な採鉱により昭和28年(1953)に鉱山の大縮小が断行され、平成元年(1989)に操業を休止した。

窯業の分野では、明治以降、佐渡鉱山の坑内から出る酸化鉄を大量に含む赤色の無名異土を原料とした無名異焼が三浦常山や伊藤赤水によって広められ、その流れをくむ三浦小平次が平成9年(1997)に、5代伊藤赤水が平成15年(2003)に重要無形文化財保持者(人間国宝)に指定されている。

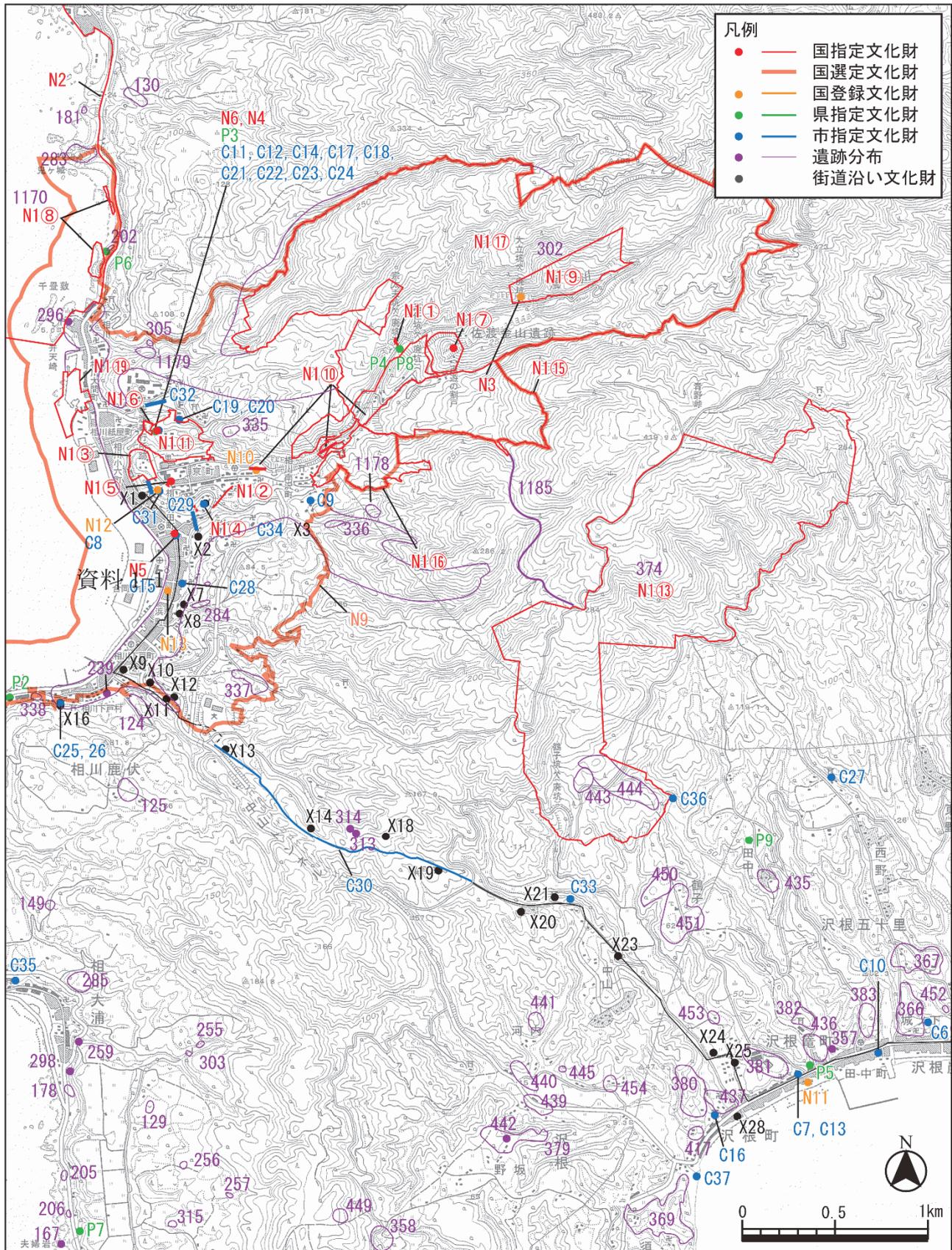


図 2-2 : 史跡佐渡金銀山遺跡 (相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺) の文化財

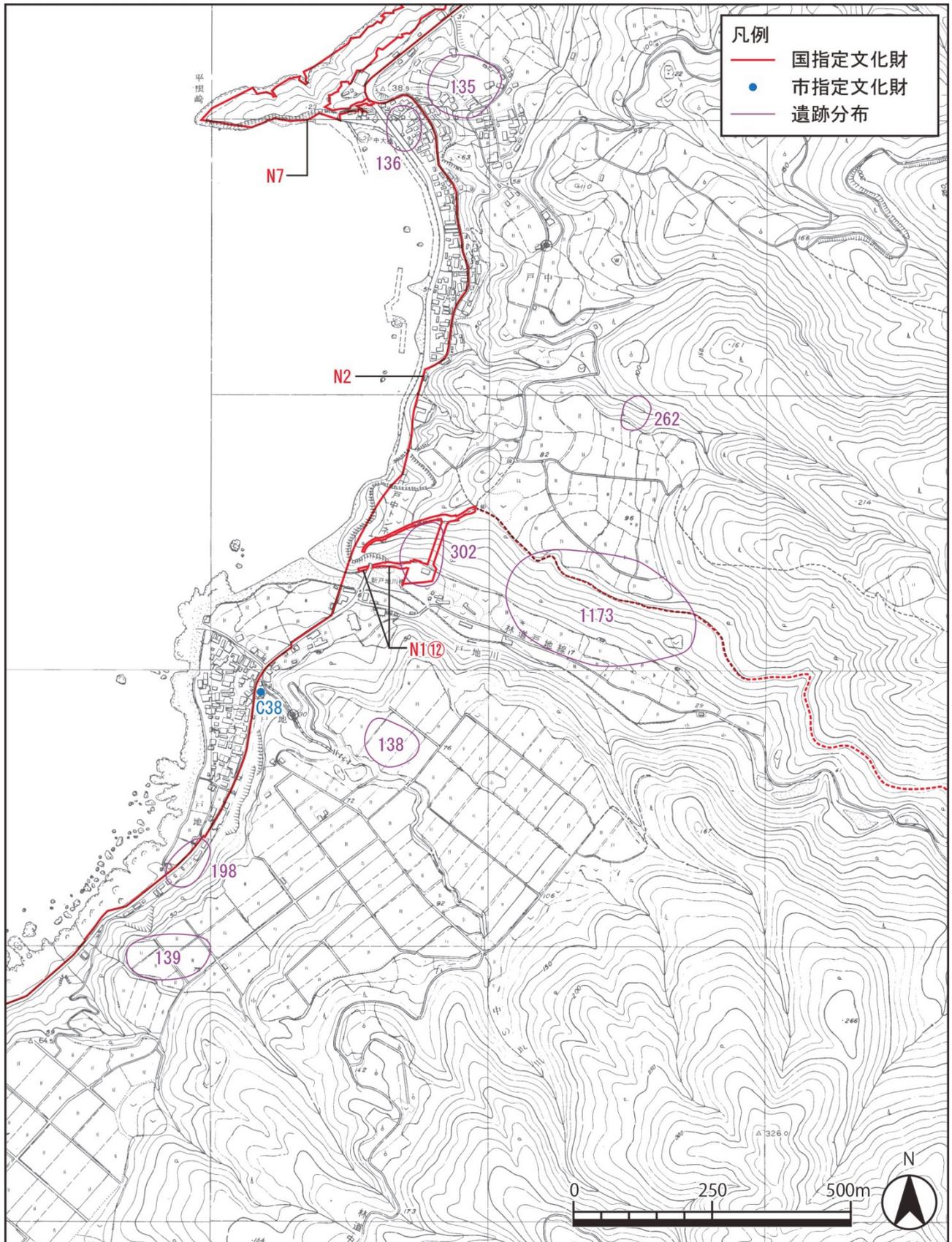


図 2-3 : 史跡佐渡金銀山遺跡（戸地地区周辺）の文化財

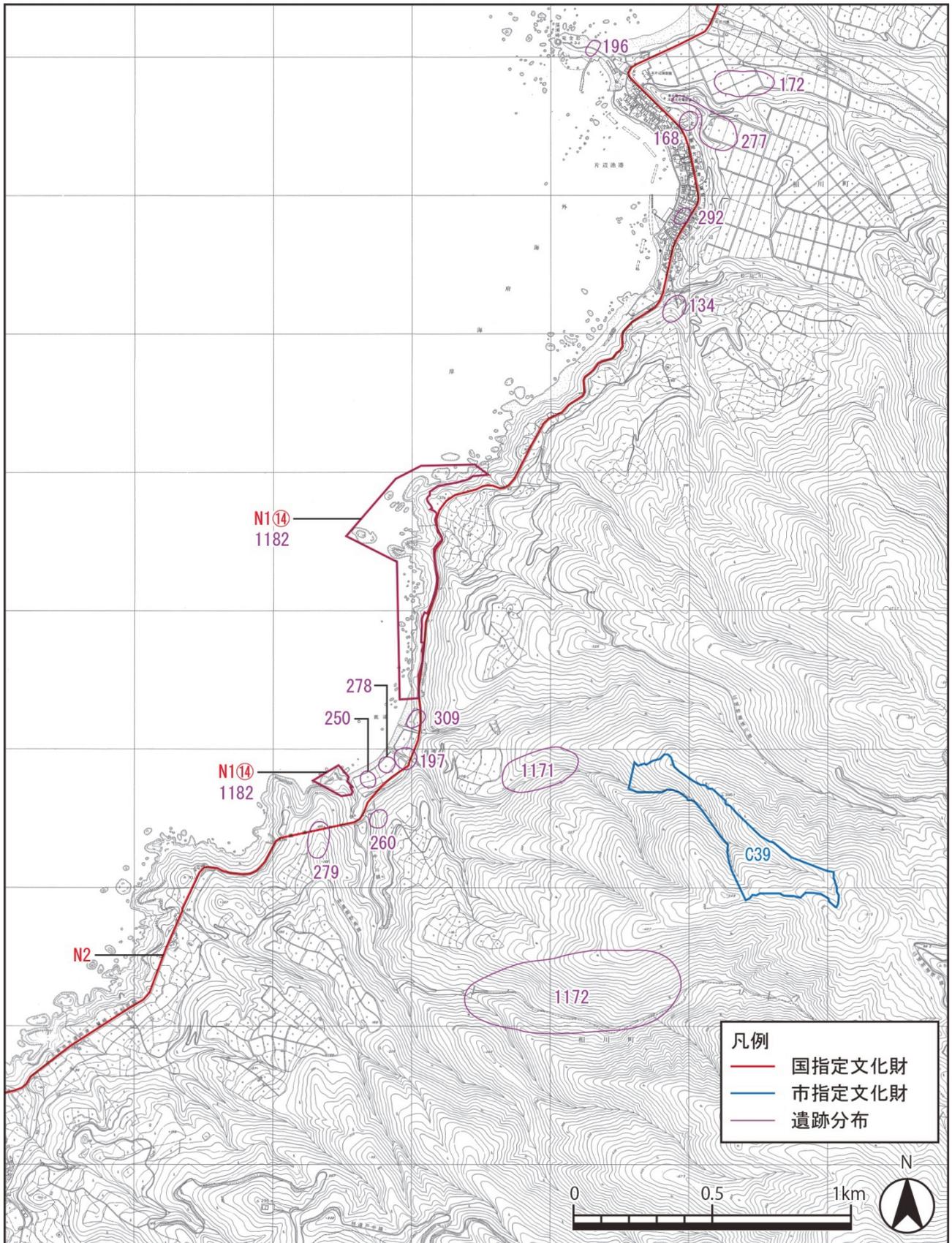


図 2-4 : 史跡佐渡金銀山遺跡 (片辺・鹿野浦海岸石切場跡周辺) の文化財

表 2-1：史跡佐渡金銀山遺跡周辺指定文化財一覧表

■国指定

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N1	佐渡金銀山遺跡	史跡	平成 6. 5. 24	相川銀山町 他
	① 宗太夫間歩			
	② 南沢疎水道			
	③ 佐渡奉行所跡			
	④ 大久保長安逆修塔・河村彦左衛門 供養塔			
	⑤ 鐘楼			
	⑥ 御料局佐渡支庁跡			
	⑦ 道遊の割戸			
	⑧ 吹上海岸石切場跡			
	⑨ 大立地区 (近代遺跡)			
	⑩ 高任・間ノ山地区 (近代遺跡)			
	⑪ 北沢地区 (近代遺跡)			
	⑫ 戸地地区 (近代遺跡)			
	⑬ 鶴子銀山跡			
	⑭ 片辺・鹿野浦海岸石切場跡			
	⑮ 上相川地区			
	⑯ 上寺町地区			
	⑰ 相川金銀山跡			
	⑱ 西三川砂金山跡			
⑲ 大間地区				
			平成 21. 7. 23	
			平成 22. 2. 22 ※戸地地区：平成 27. 10. 7 追加指定	
			平成 23. 2. 7	
			平成 24. 1. 24	
			平成 25. 3. 27	
			平成 26. 10. 6	
			平成 27. 3. 10	
			平成 27. 10. 7	
			平成 27. 10. 7	

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域及び戸地地区及び片辺・鹿野浦海岸石切場跡周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N2	佐渡海府海岸	名勝	昭和 9. 5. 1	

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N3	旧佐渡鉱山採鉱施設(大立堅坑櫓、大立堅坑巻揚機室、道遊坑及び高任坑、高任粗砕場、高任貯鉱舎及びベルトコンベアヤード、電車車庫(機械工場)、間ノ山上橋、間ノ山下橋)	重要文化財 (建造物)	平成 24. 12. 28	下相川・相川宗徳町
N4	新潟県佐渡奉行所跡出土品	重要文化財 (考古資料)	平成 23. 6. 27	相川坂下町(相川郷土博物館)
N5	無名異焼(五代赤水)	重要無形文化財 (工芸技術)	平成 15. 7. 10	相川一丁目
N6	佐渡海府の紡織用具	重要有形民俗文化財 (器具)	昭和 51. 8. 23	相川坂下町(相川郷土博物館)

(戸地地区周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N7	平根崎の波蝕甌穴群	天然記念物	昭和 15. 7. 12	戸中

■国選定

(西三川砂金山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N8	佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観	重要文化的景観	平成 23. 9. 21	西三川 他

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N9	佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観	重要文化的景観	平成 27. 10. 7	相川上京町 他

■国登録

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
N10	旧相川拘置支所(事務所棟、炊事・倉庫棟・居房棟、事務所門及び塀)	登録有形文化財(建造物)	平成 18. 10. 18	相川新五郎町
N11	本光寺(本堂・鐘楼・大門・塀)	登録有形文化財(建造物)	平成 20. 3. 7	沢根籠町
N12	旧相川税務署(本館・書庫・門及び袖塀・石積)	登録有形文化財(建造物)	平成 21. 8. 7	相川長坂町
N13	松榮家住宅(主屋・新蔵・オモ蔵)	登録有形文化財(建造物)	平成 27. 3. 26	相川三町目浜町

■県指定

(西三川砂金山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
P1	五所神社の御田植神事	無形民俗文化財	昭和 51. 12. 25	下川茂

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
P2	銅造観世音菩薩立像	有形文化財(彫刻)	昭和 59. 3. 27	相川鹿伏(観音寺)
P3	川上家文書	有形文化財(古文書)	平成 11. 3. 30	相川坂下町(相川郷土博物館 他)
P4	佐渡鉱山関係施設等設計図 一括	有形文化財(歴史資料)	平成 15. 3. 28	下相川(ゴールデン佐渡)
P5	佐渡の蠟型鑄金技術	無形文化財(工芸技術)	昭和 53. 12. 26	沢根籠町
P6	相川鉱山遺跡 鎮目市左衛門の墓	史跡	昭和 33. 3. 22	下相川(吹上海岸)
P7	浜端洞穴遺跡	史跡	昭和 48. 3. 29	相川高瀬
P8	佐渡鉱床の金鉱石	天然記念物	平成 21. 3. 24	下相川(ゴールデン佐渡)
P9	佐渡茅葺職人	選定保存技術	平成 12. 3. 24	沢根五十里

■市指定

(西三川砂金山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
C1	木造薬師如来坐像	有形文化財(彫刻)	平成 16. 3. 1	下川茂(東林寺)
C2	金子勘三郎家文書	有形文化財(古文書)	平成 16. 3. 1	西三川
C3	笹川砂金山砂金採取用具	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	西三川
C4	五所神社の大杉	天然記念物	平成 16. 3. 1	下川茂
C5	稲荷神社の大杉	天然記念物	平成 16. 3. 1	下黒山

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
C6	励風館	有形文化財(建造物)	平成 16. 3. 1	沢根五十里
C7	沢根籠町善宝寺	有形文化財(建造物)	平成 16. 3. 1	沢根籠町(総鏡寺境内)
C8	旧相川裁判所	有形文化財(建造物)	平成 16. 3. 1	相川米屋町
C9	内陣欄間と御拝	有形文化財(彫刻)	平成 16. 3. 1	相川南沢町(長明寺)
C10	佐渡国寺社帳	有形文化財(典籍)	平成 16. 3. 1	沢根五十里
C11	高野家文書	有形文化財(古文書)	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C12	佐渡奉行所関連絵図	有形文化財(古文書)	平成 16. 3. 1	相川江戸沢町 他(相川郷土博物館 他)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
C13	芭蕉荒海句碑	有形文化財 (歴史資料)	平成 16. 3. 1	沢根籠町(総鏡寺)
C14	佐渡金銀山絵巻	有形文化財 (歴史資料)	平成 23. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館) 他
C15	無名異焼	無形文化財 (工芸技術)	平成 16. 3. 1	相川一丁目
C16	白山神社絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	沢根籠町
C17	相川音頭絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C18	観音堂奉納絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C19	七福神演能絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川下山之神町(大山祇神社)
C20	やわらぎ絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川下山之神町(大山祇神社)
C21	級織り用具と製品	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C22	相川金山鉦具	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町・下相川 (相川郷土博物館他)
C23	金掘り絵馬	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C24	大提灯武者絵	有形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川坂下町(相川郷土博物館)
C25	善知鳥神社祭礼行事	無形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川下戸村
C26	消防はしご乗り	無形民俗文化財	平成 16. 3. 1	相川四丁目(善知鳥神社奉納)
C27	金北山神社例祭神事	無形民俗文化財	平成 16. 3. 1	沢根五十里
C28	黒沢金太郎窯跡	史跡	平成 16. 3. 1	相川羽田村
C29	寺町に至る石段	史跡	平成 16. 3. 1	相川南沢町 他
C30	中山旧道	史跡	平成 16. 3. 1	相川下戸村・沢根
C31	西坂	史跡	平成 16. 3. 1	相川長坂町
C32	巖常寺坂	史跡	平成 16. 3. 1	相川坂下町 他
C33	中山一里塚	史跡	平成 16. 3. 1	沢根
C34	大安寺のタブ林	天然記念物	平成 16. 3. 1	相川江戸沢町
C35	尾平神社のタブ林	天然記念物	平成 16. 3. 1	大浦
C36	沢根の貝立層	天然記念物	平成 16. 3. 1	沢根
C37	沢根崖	天然記念物	平成 16. 3. 1	沢根

(戸地地区周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
C38	熊野神社祭礼行事	無形民俗文化財	平成 16. 3. 1	戸地

(片辺・鹿野浦海岸石切場跡周辺)

No.	名称	種別	指定年月日	所在地
C39	南片辺のキタゴヨウ林	天然記念物	平成 16. 3. 1	南片辺

■周辺遺跡一覧 (No. は県遺跡台帳の遺跡番号)

(西三川砂金山地域周辺)

No.	遺跡名	種別	所在地	主な年代
742	大工町	遺物包含地	大小	縄文
832	笹川城跡	城館跡	西三川	戦国末期
837	静平城跡	城館跡	静平	戦国末期
879	笹川拾八枚	生産遺跡(鉦山跡)	西三川	近世
880	カジ屋敷	生産遺跡(鉦山跡)	西三川	近世
881	せりば	生産遺跡(鉦山跡)	西三川	近世
882	鉄砲場	生産遺跡(鉦山跡)	西三川	近世
883	砂金江道跡	生産遺跡(鉦山跡)	西三川	不明
884	法名院塚	塚	西三川	中世?
902	花見沢銀山跡	生産遺跡(鉦山跡)	大小	近世
1127	下川茂城	城館跡	下川茂	不明
1134	前	遺物包含地	下川茂	縄文・古代・中世
1135	岩ノ平	散布地	下川茂	縄文・平安
1136	馬道	散布地	下川茂	縄文・平安
1142	森ノ前	遺物包含地	下川茂	縄文・平安
1143	下ツエ	遺物包含地	下川茂	平安
1144	ゼンナミ	散布地	下川茂	平安
1184	西三川砂金山跡	生産遺跡	西三川	中世・近世

(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	遺跡名	種別	所在地	主な年代
124	向の畑	遺物包含地	相川下戸	縄文
125	開	遺物包含地	相川鹿伏	縄文
129	相鱈	遺物包含地	相川大浦	縄文
130	小川貝塚	遺物包含地	小川	縄文
149	大上	遺物包含地	相川大浦	縄文
167	夫婦岩洞穴	遺物包含地	高瀬	弥生・古墳
178	大浦平田	遺物包含地	相川大浦	古墳
181	ミルメ	遺物包含地	下相川	古墳
202	下相川吹上	製塩跡	下相川	古墳
205	大魚	製塩跡	高瀬	古墳
206	助岩岩陰	製塩跡	高瀬	古墳
239	北野天神	遺物包含地	相川下戸村	平安
255	石地河内窯跡	窯跡	相川大浦	平安
256	苗代の腰窯跡	窯跡	高瀬	平安
257	高瀬穴釜窯跡	窯跡	高瀬	平安
259	京塚	墳墓	相川大浦	鎌倉
283	鬼ヶ城	遺物包含地	下相川	戦国
284	羽田城跡	城館跡	相川羽田村	戦国
285	大浦城跡	城館跡	相川大浦	戦国
296	富崎不動摩崖仏	摩崖仏	下相川	近世
298	平田摩崖仏	摩崖仏	相川大浦	近世
302 (N1)	佐渡金山	鉱山跡	佐渡市	近世～近現代
303	大浦鉱山跡	鉱山跡	相川大浦	近世
305	水金沢窯跡	散布地	下相川	近世
313	キリシタン塚 A	塚	相川下戸	
314	キリシタン塚 B	塚	相川下戸	
315	丸山塚	塚	高瀬	
335	中山之神	遺物包含地	下相川	縄文
336	イチカ潟	遺物包含地	相川羽田村	縄文・平安
337	道違	遺物包含地	下戸村	平安
338	野萩	遺物包含地	相川鹿伏	平安
357	沢根古墳	古墳	沢根	古墳
358	野坂穴釜	製鉄跡	沢根	奈良・平安
366	五十里城跡	城館跡	沢根五十里	室町
367	五十里西野城跡	城館跡	沢根五十里	室町
369	沢根城跡	城館跡	沢根	室町
374 (N1⑬)	鶴子銀山跡	鉱山跡	沢根	室町～近世・近代
379	野坂城跡	城館跡	沢根	
380	沢根元城跡	城館跡	沢根	
381	田上城跡	城館跡	沢根	近世
382	鶴子城跡	城館跡	沢根	
383	田中城跡	城館跡	沢根	
417	沢根本町	遺物包含地	沢根	平安・中世
435	沢根五十里田中	遺物包含地	沢根五十里	平安・中世・近世
436	沢根籠町	遺物包含地	沢根籠町	古墳・平安
437	専得寺	遺物包含地	沢根	平安
439	河内垣ノ内	遺物包含地	沢根	平安
440	河内道下	遺物包含地	沢根	平安
441	河内舞台	遺物包含地	沢根	中世
442	内木の塚	塚	沢根	
443 (N1⑬)	鶴子銀山代官屋敷跡	遺物包含地	沢根	安土桃山～近世
444 (N1⑬)	鶴子荒町	遺物包含地	沢根	安土桃山～近世
445	河内永慶寺跡	寺院跡	沢根	
449	野坂鉱山跡	鉱山跡	沢根	近世
450	鶴子床屋跡	生産遺跡	沢根	近世・近現代
451	鶴子田中	集落跡・社寺跡	沢根	近世
452	西野経塚	塚	沢根五十里	中世

No.	遺跡名	種別	所在地	主な年代
453	田上丸山	散布地	沢根	中世
454	河内平田	散布地	沢根	平安
1170(N1⑧)	吹上海岸石切場跡	生産遺跡	下相川	近世
1178	大沢石切場跡	生産遺跡	上相川	近世
1179	水金沢石切場跡	生産遺跡	下相川	近世
1185	西五十里道跡	道路跡	羽田村ほか	近世

(戸地地区周辺)

No.	遺跡名	種別	所在地	主な年代
135	大戸中	散布地	戸中	縄文
136	戸中	散布地	戸中	縄文
138	大塚	散布地	戸地	縄文
139	大坪野	散布地	戸地	縄文・平安
198	井戸島の根	製塩跡	戸地	古墳～平安
262	くじら谷	墳墓	戸中	南北朝・室町
302(N1⑬)	佐渡金山	生産遺跡(鉱山跡)	相川広間, 相川八百屋町, 相川坂下町	近世～近現代
1173	戸地鉱山跡	生産遺跡(鉱山跡)	戸地, 戸中	近世

(片辺・鹿野浦海岸石切場跡周辺)

No.	遺跡名	種別	所在地	主な年代
134	松島川	散布地	南片辺	縄文・室町
168	生浦	遺物包含地	北片辺	弥生
172	馬場	遺物包含地	北片辺	古墳・古代
196	藻浦岬	製塩跡	北片辺	古墳
197	南片辺中ノ川	製塩跡	南片辺	古墳
250	南片辺安寿塚	城館跡	南片辺	平安・鎌倉・南北朝・室町
260	戻塚	経塚	南片辺	鎌倉
277	北片辺城跡	城館跡	北片辺	室町・戦国
278	坪石館	城館跡	南片辺	室町
279	鹿ノ浦城跡	城館跡	南片辺	室町
292	南片辺平城跡	城館跡	南片辺	戦国
309	ダッタン塚(エゾ塚)	塚	南片辺	不明
1171	鹿野浦鉛山跡	生産遺跡(鉛山跡)	南片辺	近世・近代
1172	戸中鉛山跡	生産遺跡(鉛山跡)	戸中	近世・近代
1182(N1⑭)	片辺・鹿野浦海岸石切場跡	生産遺跡	戸中・南片辺	近世

■歴史の道周辺の文化財(相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺)

No.	文化財名	年代
X1	相川道路元標	
X2	塩竈神社	寛永6年
X3	大安寺	慶長11年
X7	金毘羅神社	寛永17年
X8	弾誓寺	寛永13年
X9	下戸番所跡	慶長9年
X10	大日堂	貞和5年移転
X11	念仏車	享和元年再建
X12	処刑場跡	
X13	中山の供養塔	天明8年
X14	庚申塔	天保3年
X16	善知鳥神社	慶長5年
X18	船手投の墓地	慶長9年
X19	亀甲石	
X20	法華塚	元禄13年
X21	中山の茶屋跡	慶安年中
X23	鬼坂	
X24	田上清水	
X25	田上地藏堂	
X28	沢根番所跡	慶長年間

(3) 自然環境

①気候

佐渡島の気候は佐渡沖を流れる対馬暖流の影響もあり、冬は本土よりも気温が高く、夏は涼しいため一年を通して比較的過ごしやすいのが特徴である。

冬は大佐渡山地が日本海の外海に対して屏風のように屹立し、冬の厳しい北西風から国中平野を守っており、小佐渡山地は日本海を北上する対馬暖流の影響を受け、温暖な特性があり、相川では対岸の新潟地方と比べ気温の平年値が14.1℃と比較的高く、年間降水量も1,600mm程度と少ない。

また、日本海側の気象区域に属する新潟県は豪雪で有名であるが、佐渡島は県内でも降雪量の少ない地域の1つで、相川における最深積雪は平成13年(2001)から平成27年(2015)の平均で16.0cm、最大でも41cmである。

表 2-2 : 各地の気象データ

年度	年間平均気温 (°C)				年間降水量 (mm)				最深積雪量 (cm)			
	佐渡	新潟	長岡	高田	佐渡	新潟	長岡	高田	佐渡	新潟	長岡	高田
2001	13.9	14.0	13.1	13.6	1,231.5	1,708.0	2,101.0	3,313.0	22	55	121	141
2002	14.2	14.2	13.3	13.9	2,009.5	2,283.0	2,663.0	3,072.5	18	27	38	79
2003	13.8	13.8	13.0	13.7	1,439.0	1,688.0	2,109.0	2,511.0	41	27	65	54
2004	14.7	14.7	14.0	14.6	1,763.5	1,917.5	2,681.0	2,694.5	17	22	86	87
2005	13.7	13.8	12.9	13.5	1,551.5	1,813.0	2,618.0	3,060.0	10	24	153	126
2006	13.8	13.9	13.0	13.5	1,482.5	2,014.5	2,451.0	3,076.0	13	24	110	162
2007	14.4	14.4	13.6	14.1	1,244.0	1,748.5	2,508.0	2,449.0	0	6	31	36
2008	14.4	14.2	13.5	14.0	1,311.0	1,530.0	2,151.5	2,346.5	8	10	75	77
2009	14.0	14.1	13.5	14.0	1,561.5	1,792.5	2,238.0	2,230.5	9	21	36	27
2010	14.5	14.4	13.7	14.1	1,819.5	2,072.0	2,554.5	3,042.0	26	81	114	161
2011	13.9	13.9	13.2	13.7	1,613.0	1,858.0	2,625.5	3,273.5	13	35	145	153
2012	14.0	13.8	13.1	13.4	1,872.5	1,810.0	2,481.0	2,997.5	35	71	170	222
2013	14.0	13.8	13.3	13.8	2,102.5	2,327.0	2,994.5	3,079.5	12	16	125	138
2014	13.8	13.7	13.2	13.6	1,867.5	1,984.0	2,666.5	3,182.5	6	24	77	91
2015	14.4	14.4	13.8	14.2	1,235.0	1,467.5	1,970.5	2,379.5	10	32	96	134
平均	14.1	14.1	13.3	13.8	1,606.9	1,867.6	2,454.2	2,847.2	16.0	31.7	96.1	112.5

(出典：気象庁ホームページ)

②動物

佐渡島と本州とが陸続きであった氷河期に渡来した動物は、その後に海峡ができ移動経路を断たれたことから、現在の島内には移動範囲の狭い小型哺乳類であるサドノウサギやサドモグラ、サドトガリネズミなどの固有種が生息する。また、同様に歩行性昆虫のサドマイマイカブリ、サドコブヤハズカミキリや陸産貝類のサドマイマイ、サドキセルガイ、両生類のサドガエルも佐渡固有種である。

佐渡島ではニホンツキノワグマ、ニホンイノシシなど大型の哺乳類は生息せず、中型哺乳類のサドノウサギのほか、江戸期の金銀製錬で使用する鞆の内張りに皮を利用したホンドタヌキ、同じ

く江戸期に持ち込まれたホンドイタチ、サドノウサギ駆除のため昭和期に移入されたホンドテンの4種が生息する。ホンドタヌキは、佐渡の動物相の頂点に立つ種で、近年では急激に増殖し島内各地に生息する。また、逆にサドノウサギは生息数が減少し、大佐渡山地と小佐渡山地の一部で確認されるだけとなり、新潟県の準絶滅危惧種に指定された。そのほか陸生の小型哺乳類として、国内各地に生息するニホンブネズミ、ホンドハツカネズミ、ニホンクマネズミ、アブラコウモリ、ニホンキクガシラコウモリなどが確認されている。

昆虫類では、佐渡固有種のほかセアカオサムシ、ハンミョウなど歩行性の甲虫と、セミ類、ヤンマ科やトンボ科のトンボ類、アゲハチョウ科のチョウ類、ガ類など飛翔力の強い昆虫類が生息する。

佐渡は特別天然記念物トキの日本最後の生息地として知られ、平成28年(2016)現在、島内には人工繁殖・放鳥により200羽を超えるまでに回復している。その他、鳥類は新潟に比して100種ほど少ない300種が確認されており、佐渡固有のサドカケスや基型のキタキジも生息する。また佐渡は、ユーラシア大陸と日本列島との間に位置することから、渡り鳥の中継地あるいは繁殖地となっており、大陸からの鳥類も飛来する。

③植生

寒地・暖地両系の植物の境界線とされる北緯38度線が佐渡島の中央を通過し、対馬暖流の影響もあって、寒地・暖地の植物の棲み分けがみられる。このような条件の下、島の植物相は1,700種を数え複雑である。

冬の季節風の影響をさけた丘陵部は暖帯気候となっており、常緑広葉樹が成立し、スダジイ、タブ、アカガシ、ウラジロガシ、ヤブツバキなどが生育している。一方、日本海を南下する寒流や季節風の影響を受ける山地は温帯気候であり、落葉広葉樹林が成立し、ブナやミズナラをはじめとする雪国特有の植物もみられる。また、大佐渡山地の尾根筋では、海拔およそ1,000mでありながら、高山・寒地植物がみられる。

佐渡における植生はきわめて豊かであると同時に、ツワブキのように北限分布をなすものとエゾノコギリソウのように南限分布を示すものが同地で生育するという特殊性も有している。

西三川砂金山跡の所在する西三川地区は、笹川集落周辺のほとんど全域がコナラ・アカマツ林かコナラでできている二次林である。笹川集落を取り巻く地域及び河川流域の植物相は、自然林としてコナラ・アカマツ、オニグルミ林、人工のスギ林の3つのタイプに分けられる。これらはすべて夏緑樹林帯の中に位置する樹林である。

相川金銀山跡の所在する相川地区の原植生は、シイ・タブである。このうち宗太夫間歩、近代遺跡大立地区近辺では、デイサイト(石英安山岩)の岩塊にアカマツが優占して生育する。またアカマツに混じりシイやヤブツバキが混生し、林のふちには、オモト・ツワブキ・キズタ・ヤブコウジ・ベニシダなどの暖帯林要素植物が生育する。林相はアカマツ林で土地的極相林であるが、その混生植物から判断すればシイ林域である。この地帯は海岸からおよそ2km、海拔100mの位置にあり、相川におけるシイ林域の上限である。

④地質

佐渡島における地層の大部分は、火山によって形成された火山岩類及び日本海の海底で堆積した地層が重なって形成されたものである。このうち道遊の割戸や鶴子銀山などが立地する大佐渡山地を構成する地質は、古第三紀・斬新世(2,300万年前)から新第三紀中新世初期(1,800万年前)に堆積したグリーンタフである。また、その他の岩石として、凝灰岩、玄武岩、硬質頁岩がみられる。グリーンタフはデイサイト(石英安山岩)や安山岩の溶岩類やそれらの火砕岩からなる火山噴出物を主体とし、堆積している層を相川層群と呼んでいる。

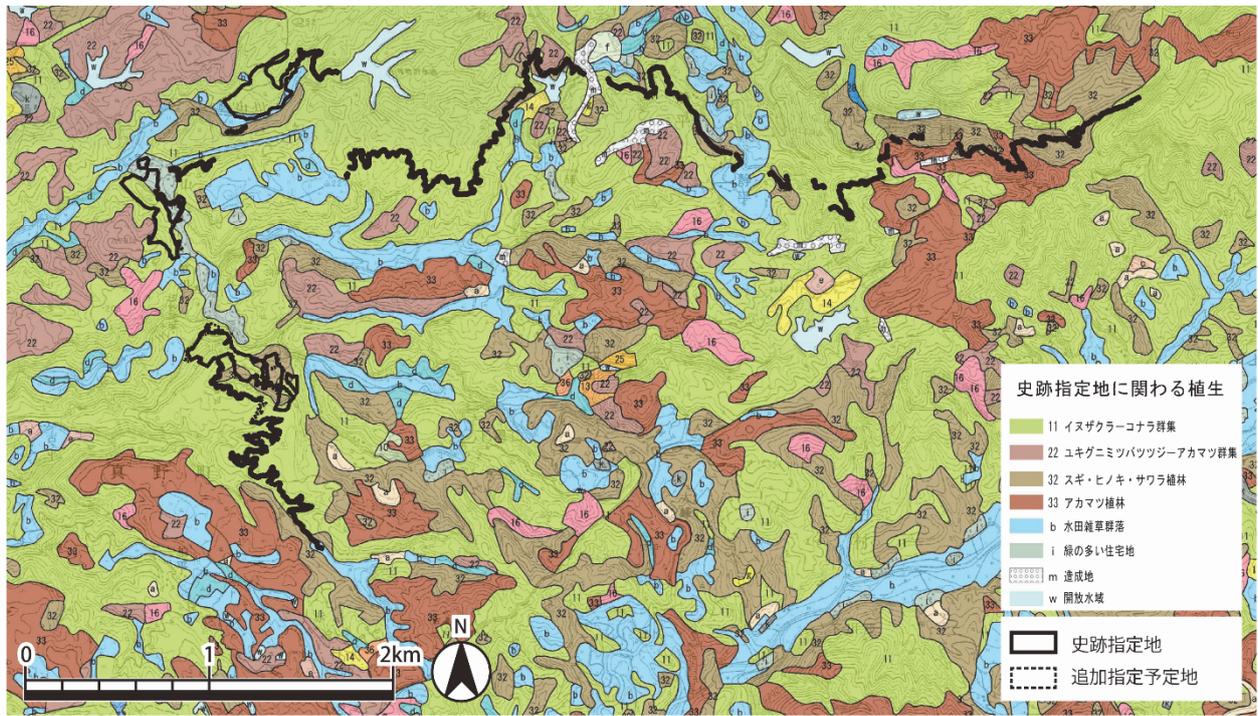


図 2-5：西三川砂金山地域周辺の植生図（第 6・7 回自然環境保全基礎調査植生調査より）

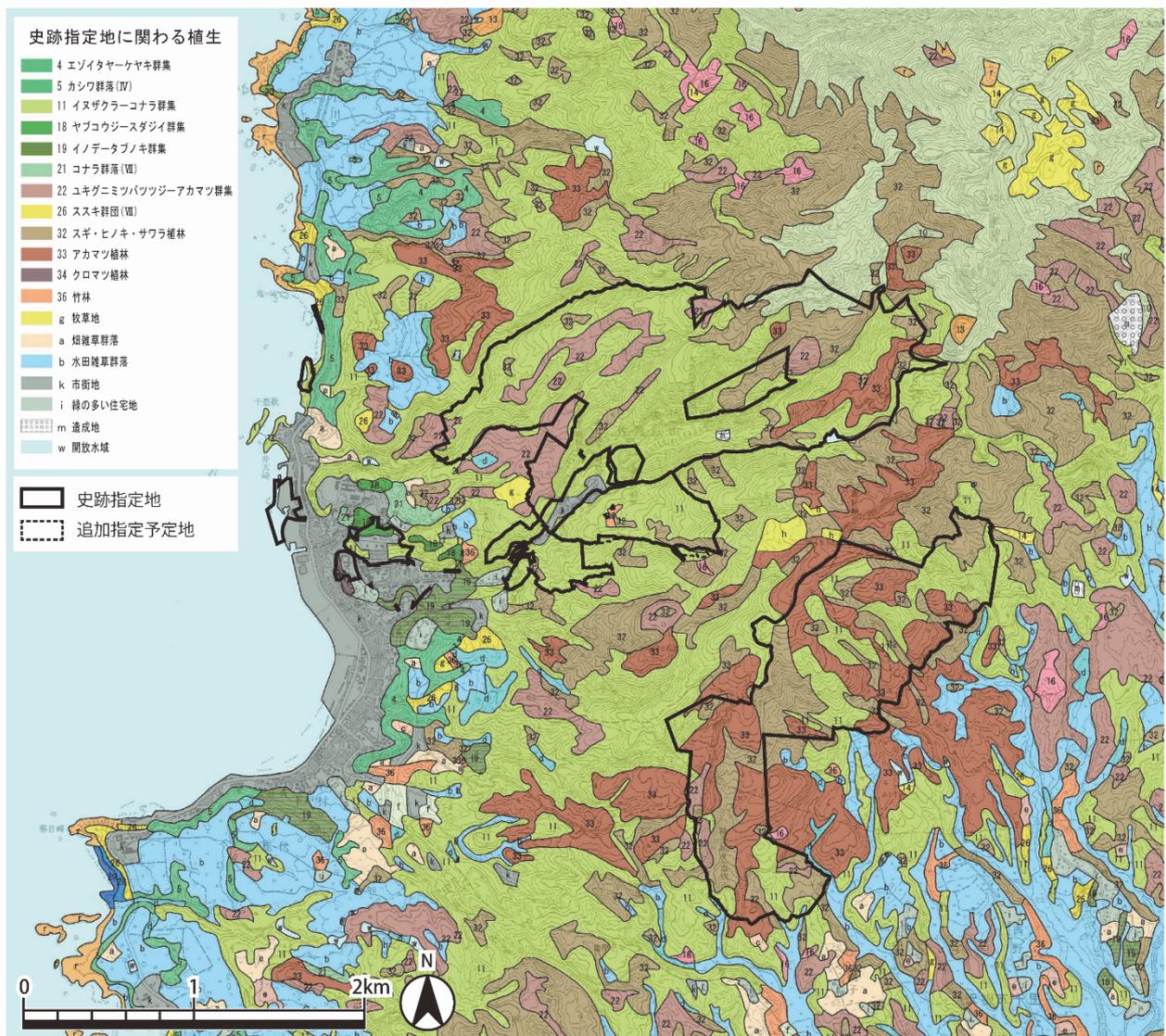


図 2-6：相川金銀山地域及び鶴子銀山地域周辺の植生図（第 6・7 回自然環境保全基礎調査植生調査より）